

チュートリアルセミナーのご案内

応用統計学会では、日本計量生物学会と合同でチュートリアルセミナーを企画しております。奮ってご参加ください（チュートリアルセミナー参加費は年会参加費とは別ですのでご注意ください）。また、最新の情報は応用統計学会年会特設 HP (<https://applstat.ywstat.jp/>) にてご案内します。

1. 日時：2023年4月21日（金）午後
2. 開催方式：ハイブリッド開催（現地開催＋ライブ配信）（予定）
3. 現地会場：北海道大学 学術交流会館講堂
4. 定員：現地参加150人、Zoom Webinar1000人
5. 参加費：

本学会員	2,000円
日本計量生物学会員	2,000円
非会員	4,000円
学生（会員・非会員とも）	1,000円

6. テーマ：統計的因果推論の基本と応用
内容：

現代的な統計学における因果推論は、1980年代に Donald Rubin によって提唱された潜在的結果変数の枠組みを基礎として、この40年ほどで大きく発展してきた。特に、2021年には「因果関係の分析に対する方法論的な貢献に対して」、Joshua Angrist と Guido Imbens がノーベル経済学賞を受賞した。このように、統計的因果推論は、近年、世界的にさまざまな分野で注目されている。本講演では、統計的因果推論の基本的な考え方と応用的な技術を扱う。

前半では、統計的因果推論の考え方に焦点を当てて、欠測データの問題としての潜在的結果変数の枠組みによる因果推論の考え方を紹介する。操作なくして因果なしとはどういう意味か、推定対象とする因果効果とは何か、といった基本的な事項を扱う。

後半では、統計的因果推論の技術に焦点を当てる。Rosenbaum and Rubin (1983)により提案された傾向スコアは、統計的因果推論でよく用いられる技術である。復元と非復元のマッチング、マッチングによる推定量、マッチング後の標準誤差の計算方法、傾向スコアをマッチングに使うべきでないという King and Nielsen (2019)の指摘など、傾向スコアマッチングに関する注意事項も議論する。また、Angrist と Imbens の得意とする操作変数法と回帰不連続デザインについて、概要と重要なポイントにも触れる予定である。特に、回帰不連続デザインは、ここ数年で急速に発展している。うまく使うことができれば、最も実験研究に近い疑似実験デザインとも言われていることから、さまざまな応用分野における実証研究で活用されることが期待され

る. 後半で扱う技術については, 実際に統計環境 R で実行するデモも含めて, 実践的な話題も提供する.

講師 :

高橋 将宜 (長崎大学情報データ科学部)

申し込み方法 : 応用統計学会年会特設 HP (<https://applstat.ywstat.jp/>) からお申込みいただけます.